

# 城南魂

正しい心  
美しい心  
粘り強い心

## ブドウ畑の宝物

『お父さんと3人の息子たちがいました。4人は広いブドウ畑をもっていました。4人とも真面目で、たいへんな働きものでした。

ある日のこと、お父さんは病気になってしまいました。子どもたちは一生懸命看病しましたが、なかなか病気はよくなりません。自分の命が残り少ないことを、お父さんは悟ったのでしょう。子どもたちを枕元に呼ぶと、言いました。「お前たち、これまで一生懸命わたしの看病をしてくれてありがとう。だが、わたしはそろそろ神様のもとへ行くときが近づいてきたようだ。わたしが神様のもとへ行く前に、おまへたちに伝えておきたいことがある。実は…、あのぶどう畑には宝が埋まっているのだ。」

3人の息子たちは驚きました。あの畑に宝が埋まっていたなんて！初めて聞く言葉です。

「いったい、畑のどこに埋まっているのですか？」

「それは・・・」

お父さんは言いかけてましたが、お父さんはそのまま天へと召されてしまったのです。

「あの広い畑の一体どこに宝が埋まっているのだろう？」

お父さんのお葬式を済ませると、3人の子どもたちは宝のことが気になり、3人で分担して広い畑のあっちこっちを掘り返しはじめました。1ヶ月ほどで畑中を掘り返し尽くしましたが、宝は見つかりませんでした。「どうなっているんだ？」あの言葉はうそだったのでしょか？

やがて子どもたちは宝をあきらめ、またせつせと畑仕事に精を出しました。秋になりました。ブドウ畑には今年もたくさんのブドウがなりました。それらを町へもっていくと、とても高い値段で売れました。3人の元にはたくさんのお金がいってきました。

「そうか、畑の宝の意味がわかったぞ！」

ある日、息子の一人が言いました。

「お父さんが宝が埋まっていると言ったのは一生懸命、畑仕事をしろということだったのさ。そうすれば、立派なブドウがたくさんとれる。

それがぼくたちにとっての宝ということなんだ。てっきり畑の下に何かが埋まっているものだとばかり思っていたけれどそれは違っていたんだ。今年はぼくらが宝さがして畑をあちこち掘り返したのが、たくさんの畑を耕したことになるって、ぶどうがたくさんとれたのさ。」

その説明を聞いて、2人も納得しました。その次の年も、3人は秋にまたすばらしいブドウを手に入れられるよう一生懸命畑の土を掘り返し、畑を耕したのです。』

1,2年生は学年末テスト、3年生は最後の実力テストが終わり、3月5,6日には県立一般入試を迎えます。人は目先のことに捕らわれがちです。今頑張ったことがすぐかたちになるとはかぎりません。しかし、努力をし続けていれば必ず自分の成長につながります。そして、頑張ったという経験が自分の自信につながり、今後の人生の財産になります。今一度自分に問いかけてみてください。テスト勉強は頑張れましたか？

いよいよ3学期も残り1ヶ月ほどとなりました。1,2年生は3月5日に合唱コンクール、3年生は3月8日に卒業式を迎えます。

テストや部活動、合唱コンクール等の行事、そしてこれからの人生、「努力をし続ける大切さ」を忘れず、結果が出なくてもくじけず次に向かって努力を重ねましょう。

(引用文献) 向山洋一 「子どもがじっと耳を傾ける魔法のおはなし」  
<保護者様へ>

少しずつですが遅刻が少なくなりました。保護者様のご協力、ありがとうございます。今後とも、早めの登校を促していただきますよう、お願いいたします。また、朝登校時は校門付近が大変混雑します。朝登校時での西門からの入校のご協力、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、最近では、不要物を持ってこないようにと、全校生徒に話をすることが何度かありました。学校は学習するために来る場所で、学習に必要なものについては持っていないようにご家庭でもお話をいただければと思います。

